新シリーズ Vol.3 2020 冬号

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ **虫の館のスターたち ③**

ツダナナフシ *Megacrania tsudai*

ナナフシ科　ナナフシ目

全長 10cm にも達する巨体。ボールペンのような胴体に太短い脚（あし）。ビニールのような質感。目立つ異様な容姿にもかかわらず、沖縄県西表島で発見されたのは 1989 年と最近です。成虫・幼虫とも、鋭い棘のあるタコノキ科の植物「アダン」しか食べないこと、夜行性で昼間は隠れていること、これらが発見が遅れた原因と思われます。国内では、石垣島にも生息しています。

単為生殖（たんいせいしょく）によって繁殖するため、発見されるのは雌ばかりです。全長 7 ㎜もある卵は、植物の種のような形をしています。展示ケースの底部を良く見てみてください。産み落とされた卵を発見できるはずです。成虫・幼虫ともに、危険を察知すると、頭の後ろから湿布薬のようなにおいのする白い液体を出します。

アダンは、きわめて高温になる海浜に多く自生します。そこで昆虫館では、冬でも暖かいパピヨンドーム内に植え、必要な量の葉を、いつでも給餌できるように工夫しています。（松尾）

こんちゅう館の季節の虫

ウスバフユシャク *Inurois fletcheri*

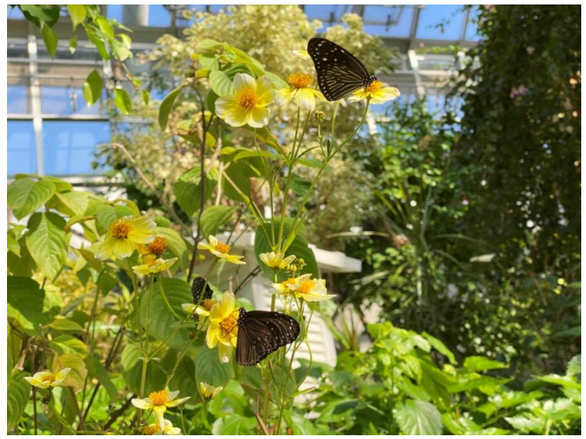
小雪が舞う真冬の夜、灯りがもれる飼育室の窓辺を数種のガがひっそりと訪れます。フユシャクガと総称される、シャクガ科の仲間です。成虫は、11 月中旬～3 月に出現します。

翅（はね）を持たない雌は、夜間、化学物質を体外に放出し、雄を呼び寄せて交尾をします。幼虫がコナラやサクラを食べるウスバフユシャクは、普通種ですが…雌の発見は困難です。（坂本）

ウスバフユシャクの交尾（左が雌）

パピヨンドームの花

ウィンターコスモス *Bidens* sp.



南の島々で、チョウ類が好んで訪れるシロバナセンダングサに近縁のキク科の植物です。

冬のパピヨンドームでも、チョウ類に大人気！さまざまな種が集まり、ゆっくりと蜜を吸います。

冬の戸外では枯れてしまいますが、パピヨンドームでは、11 頃から咲き始め、長期間にわたり、美しい花を咲かせてくれます。（藤井）

イベント案内

★12 月 ① 虫講座「カブト・クワガタの標本づくり」：13 日（日）13：30～14：30
　　② 「X'mas 蜜蝋キャンドルづくり」：20 日（日）13：30～14：30
★ 1 月 ③「森の七福神巡り」9 日（土）、10 日（日）10：00～14：00
　　④ 工作「缶バッジづくり」：17 日（日）、24（日）
　　1 回目/10：00～、2 回目/11：00～、3 回目/13：00～、4 回目/14：00～
★ 2 月 ⑤工作「かいこのまゆ工作」：7 日(日)，21 日(日)、28 日（日）
　　1 回目/10：00～、2 回目/11：00～、3 回目/13：00～、4 回目/14：00～
　　⑥「バレンタイン ラブラブーケ」13 日（土）、14 日（日）10:00～12:00 13:00～14:00

※ 新型コロナウィルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。
※ ③⑥のみ自由参加。その他は、すべて「Ｅメールでの事前申し込み制」です。
※ 募集定員数は、各回とも 25 名程度。応募多数の場合は抽選となります。
※ 申し込み締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館までお問い合わせください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.3 冬号 2020 年 12 月 1 日
編集/発行 ひろしま遊学のホホ 広島市森林公園 こんちゅう館
〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地
TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP http://www.hiro-kon.jp/

パピヨンドームの舞姫 ③

ナミアゲハ *Papilio xuthus*

アゲハチョウ科　チョウ目

ランタナの蜜を吸う雌成虫

卵

幼　虫

アゲハソウ

温室に入れたミカン類

越冬蛹（えっとうよう）

キンカンやユズなど、庭木のミカン類を食べる「ナミアゲハ」は、とても身近な存在です。ありふれた種にもかかわらず、冬のパピヨンドーム内では数が少なく、なかなか見ることができません。

秋に育った幼虫は、日長時間が短くなったことを感知し、冬を越すための「越冬蛹（えっとうよう）」になります。すると、１か月以上の低温を経験しないと成虫が羽化しません。ちょっと、扱いにくい種といえます。また、冬は幼虫の餌が不足がちになります。特に噛む力が弱い若令幼虫には、柔らかい新芽を与える必要があります。冬は新芽も硬く閉じたままなので、「赤ちゃん食」を確保するのも一苦労です。代用の餌として、葉が比較的柔らかい「アゲハソウ」などを与えて育てています。

パピヨンドームに舞うチョウ類のほとんどは、沖縄県産の種類です。成長が止まってしまうほど寒い冬を経験したことがない「南の島のチョウ類」は、日長時間が短くなったとしても、「越冬蛹」にはなりません。昆虫館にとって、とても扱いやすく、ありがたい存在なのです。（藤井）

トンボ池の四季　2020 冬

寒くなるにつれトンボ池の水草はじょじょに枯れ、昆虫たちは冬眠に入ります。冬は池で観察会をしないため、橋の点検や池干しなど、大がかりな整備を行います。水が冷たく作業がつらい反面、整備による生物への影響を、最小限にとどめることができるという利点があります。

一方、冬の間にトンボ池を訪れる生物もいます。代表的なものがニホンヒキガエルです。在来のカエル類では最大の種です。普段は山中で生活していますが、木枯らしが吹く頃、トンボ池に集まってきます。そして岩陰や茂みの中でじっと時を待ち、２月の半ば頃、雨の降る夜に産卵します。細いゼリー状の卵塊は長さが数メートルにもなり、中には数千個もの卵が入っています。春、無数の黒いオタマジャクシが泳ぐ様子は、まるで音符をばらまいたようで壮観です。（逸見）

雪化粧をしたトンボ池：2020 年 1 月

卵　塊

ニホンヒキガエルの雌成体

水を抜いたトンボ池：2020 年 3 月